

英語コーパス学会 Newsletter No. 33

May 19, 2001

■会長: 今井 光規
■事務局: 〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室
■TEL: 088-656-7129 ■郵便振替口座: 00940-5-250586 (英語コーパス学会)
■URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html> ■E-mail: jun@ias.tokushima-u.ac.jp

JAECS
Japan Association for English Corpus Studies

会長就任のご挨拶

大阪大学言語文化学部教授 今井光規

今年度から、齊藤俊雄先生の後を受けて会長を勤めさせていただくことになりました。私に出来る範囲で微力を尽くしたいと存じます。会員の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「英語コーパス学会」は、平成5年に「英語コーパス研究会」として発足し、平成9年に学会となり、その後東支部も設置され、まだ若く比較的小規模ながら、すでに内外に向け独自の重要な役割を果たしています。われわれの学会がここまで発展することが出来たのも、前会長をはじめ、会員の皆様ならびに運営委員の方々の創意あふれるご努力の賜物と存じます。

近年、関連の様々な学会で、さかんにコーパス言語学関係のシンポジウムやワークショップが開かれています。そのような場で中心的に係わっているのは、まず例外なく本学会のメンバーの方々であることが知られています。このように、われわれの学会は英語を中心として、外国語の語学、文学、教育などの多様な分野でコンピュータを活用する最先端の研究を行い、その技術や方法の普及を図る努力において、国内ですでに指導的な立場に立ち、海外に向けても多くの会員諸氏が大きな貢献をしておられます。

本学会は、このように輝かしい発展の歴史を刻んでいます。最初の出発時点から数えると、2002年4月で設立10周年を迎えます。学会ではこれを祝い、さらに新たな飛躍を目指すために、記念論文集の刊行を含む記念事業を企画しています。これが学会の当面の一つの大きな課題であります。

もちろん、われわれの学会は、他にも多くの重要な課題を抱えています。たとえば、前会長は以前から、「思ったほど会員数が増加しない」ことを気にかけておられます。会員数は、学会の運営上重要な意味をもちますので、私も学会のPRには努めるつもりですが、上に述べましたように、変革期のまただ中で新しい道を模索する今日の教育・研究界に独自の貢献を成しつつあるかぎり、学会は堅実に発展し、会員数も然るべきところに安定するものと、私自身はいくらか楽観しています。また、われわれの学会は、草創期の困難な時期を無事に過ごしましたので、今後は、学会の在り方、学会の管理・運営についても、つねに厳しく自己評価し、また会員の皆様から忌憚のないご意見を賜りながら、一層の合理化を図り、学会を最適の形に改善していきたいと考えています。

コンピュータコーパスを活用する研究活動自体、それほど長い歴史があるわけではありません。われわれは、流行のIT革命の技術面のみならず、今日の研究・教育を取り巻く困難な状況を見据え、高い精神性をもちながら広い視野から学会活動を考え、時代の要請に正しく応えていきたいと存じます。学会の発展のために、皆様の建設的なご意見をお寄せいただければ幸いです。

会長退任のご挨拶

大東文化大学外国語学部教授 齊藤 俊雄

3月末に任期満了で会長職を退きましたが、非力な私が大過なく任期を全うできたことは、私を支えて下さった事務局の方々、役員の方々、それからもちろん会員の皆さん方のお陰と心からお礼を申し上げます。今は会長職を離れて肩からずっしりと重い荷物をおろしたような気持ちであります。

8年前に、世界におけるコーパス言語学の爆発的な発展に追いつこうと、今井、中村、赤野などの諸先生らと計って、「英語コーパス研究会」を立ち上げたことを昨日のこのように鮮明に憶えています。西日本を中心にわずか数十名の会員で発足した英語コーパス研究会でしたが、5年目に「英語コーパス学会」と改称し、8年経った現在は会員数も二百数十名になり、東支部も発足し、全国的な学会になりました。

その間我が国におけるコーパス言語学の研究水準も世界の水準に劣らないところまで上がってきたと存じます。しかしまだ世界の学界に大きく貢献するところまで行っていないのではないかと思います。

英語コーパス学会が新しい有能な会長を迎えたのを契機にして、今後日本のコーパス研究が世界に向かって大きく貢献することを期待しております。

本当に長い間皆様のご支援有り難うございました。紙上を借りて厚くお礼を申し上げます。

1. 第17回大会報告

英語コーパス学会第17回大会は、4月21日(土)に奈良の帝塚山大学短期大学部で開催されました。当日は雨模様の天候でしたが、事務局の調べでは正会員76名、新入会員8名、当日会員16名、賛助会員1名の合計101名の出席がありました。

恒例になっております午前中のワークショップは、「初めてのコーパス検索：WordSmith Tools Version 3.0を使って」と題して井上永幸先生(徳島大学)にご担当頂きました。このワークショップでは、コーパス検索のための代表的なコンコーダンサーである WordSmith Tools のダウンロードとフリーテキストを使っての基本的な使用法を、初心者にも分りやすく説明していただきました。インターネット上で井上先生のホームページを参照しながら、ステップを追っての実習は、分りやすくとても好評でした。記録的な50名を越える参加者人数に、コンコーダンサーの利用に関する関心の高さを改めて再認識させられると同時に、関西地区でも基本的なコンコーダンス利用のための講習会の必要性を感じました。

午後の大会では、開会行事として会長挨拶、開催校から小林和美帝塚山大学短期大学部長のご挨拶を頂いた後、総会が開かれました。(総会の内容については、下記をご覧ください。)引き続き、大会の中心行事である研究発表3件と、休憩を挟んでシンポジウムが行われました。

研究発表では、竹内典彦先生(札幌稲西高校)の「ホワイトハウスの記者会見に見られる語彙の特徴：高校の現場からの視点で」、深谷輝彦先生(椋山女学園大学)の「視点再帰代名詞構文の意味：談話、連語、言語使用域からのアプローチ」、Robert Sigley 先生(大東文化大学)の「The LOB clones: can we accurately compare corpora?」の3件の研究をご発表いただきました。

竹内先生はホワイトハウスでの記者会見の模様を含む The Corpus of Spoken Professional American English を MonoConc Pro2.0 と呼ばれるコンコーダンサーを使って分析した結果を、深谷先生は、「find + oneself + predicate」という視点再起代名詞構文を CobuildDirect を利用して検索、その意味について、談話、連語、言語使用域の観点から発表されました。Robert Sigley 先生は、100万語規模の5つのコーパス(Brown, LOB, Frown, FLOB, Wellington

Corpus of New Zealand English) を取り上げ、高頻度語を対象にした主因子分析から得られる“formality” index”による比較分析の結果を発表されました。以上3件の発表は、研究対象はそれぞれ違いますが、様々なコーパスが登場し、いろんな統計手法や分析方法が用いられておりましたので、今後の我々の研究にも大きな示唆を与えるものでした。

本大会を締めくくる最後のプログラムとしては、西村公正先生(関西外国語大学短期大学部)を中心に「日英パラレルコーパスでどのような英語研究が可能か?」というテーマでシンポジウムが開かれました。司会と総論的部分は西村先生に、ソフトの開発に関わった赤瀬川史朗さん(赤瀬川翻訳事務所)には、パラレルコーパスのファイル化とその検索、出力などについてお話を頂きました。続いて、研究事例として、岡田啓先生(関西外国語大学)の「『顔』を含む表現はどのように英訳されているか?」、田中美和子さん(関西外国語大学大学院)の「『とき』と“When”: 語りの when 節の意味特徴」、鷹家秀史先生(岡山朝日高等学校)の「英語教育における日英パラレルコーパスの利用」の3件のご発表をお願いしました。膨大な資料のパラレルコーパス化に伴う、苦労話等も含めて、わが国では最初の本格的なパラレルコーパスによる実証的な研究発表でしたが、意味論だけでなく英語教育の現場からの視点も含み、示唆に富んだものとなりました。1冊の冊子にまとめられたハンドアウトは、15回大会のLGSWEのシンポジウムに倣ったものですが、膨大なデータに基づき、その量だけでなく、質的にも、参加者全員に素晴らしい資料を提供して頂きました。

大会終了後の懇親会には約40名の先生方にご出席頂きました。新しく会長になられた今井光規先生のご挨拶の後、大会開催校ゆかりの八木克正先生(関西学院大学)のご発声で乾杯、会員同士の交流と情報交換、元会長の斎藤俊雄先生(大東文化大学)への花束贈呈、斎藤先生の学会創設にまつわる回顧談等でおおいに盛り上がりしました。

雨模様の天候でしたが、100名を越える参加者を迎え、大会を無事、成功裏に終えることができました。これも、素晴らしい会場を提供して頂くと共に、経済的にもご援助を頂いた帝塚山大学のご厚意と、会場校の和田弘名、梅咲敦子大会準備委員のご尽力があったことでした。この紙上を借りて深く

御礼申し上げます。また、帝塚山大学の学生諸君にも、会場準備、受付などのお手伝いをいただきました。大会成功の陰には、開催校の学生諸君もおおいに貢献したことを付け加えたいと思います。

2. 役員交代について

大会前日の4月20日午後6時より開かれた運営委員会において役員交代に関する案件がいくつか承認されました。まず、英語コーパス研究会から英語コーパス学会に移行して以来2期4年会長を勤められた齋藤俊雄先生(大東文化大学)が「会長選出に関する内規」により退任、後任として今井光規先生(大阪大学)に新しく会長をお引き受けいただくことになりました。第17回大会冒頭に事務局よりその旨報告し、今井先生には新会長としてのご挨拶をいただきました。大会にご出席いただけなかった会員諸氏も多いので、このニュースレターの巻頭に改めてご挨拶を寄稿頂きました。今後とも、学会のリーダーとして、我々の学会活動がますます活発になり、実績があげられますようよろしくお願いいたします。

会長職を退任なされた齋藤先生にも、退任のご挨拶をご寄稿頂きました。英語コーパス研究会発足以来、8年間、会長としてだけではなく、時には事務局長、会誌編集長を兼任し、精力的に学会の発展に尽くされてきた齋藤先生の献身的な努力のおかげで今日の英語コーパス学会があることは、会員全員が認めることです。長い間どうも有り難うございました。健康にくれぐれもご配慮なされるとともに、今後とも学会の発展のため、大所高所よりご助言、ご指導のほどよろしくお願いいたします。なお、齋藤先生には当分の間、学会運営委員としてお残りいただくことになっております。

運営委員にも移動がありました。英語コーパス研究会発足以来、運営委員をお引き受けいただいております鈴木重樹先生(名古屋学院大学)が職務多忙のため退任、後任を名古屋地区より滝沢直宏先生(名古屋大学)にお願いいたしました。また、鈴木先生同様、研究会発足当初から監事をお勤めいただいた丸谷満男先生(追手門学院大学)が年齢を理由に退任を希望されました。事務局としては運営委員としてお残りいただくようお願いいたしました。が、停年を迎え公職を退きたいとの強いご意向を尊重し、監事の後任を西村道信先生(大手前大学)にお願いいたしました。鈴木先生、丸谷先生、長い間ご苦労様でした。滝沢先生、西村先生、よろしくお願いいたします。

昨年4月よりお願いしている先生方4名を除く他の運営委員の先生方は、引き続き2年間運営委員をお引き受けいただくことになりました。事務局も任

期を1年残しておりますので続投ということになります。

永尾智先生(香川大学)が退任後、事務局員はほぼ1年間空席でしたが、このたび高橋薫先生(豊田高専)より、お手伝いを頂けるとのお申し出がありました。次のNewsletterの発送を契機に、学会の会計管理、名簿管理などをお願いする予定です。高橋先生、大変ですがよろしくお願いいたします。

3. 総会について

第17回大会より、大会にご参加頂いた会員のの中から議長を選出し、議事を進行する総会の運営方法を採用することになり、今回は西出公之先生(都留文科大学)に議長をお願いしました。

総会の主な議題は、過年度の決算報告と当該年度の予算案の審議ですが、事務局より提案、説明いたしました平成12年度決算書と平成13年度予算書が原案通り承認されました。なお、決算報告に先立ち、4月20日午後4時より監事の丸谷満男先生(追手門学院大学)の監査を受け、会計処理が適正であるとの報告も書面で頂いております。総会に出席なさらなかった会員諸氏には、決算書、予算書、監査報告書の写しを同封いたしますので、ご確認下さい。

その他、事務局から人事と今後の学会活動に関する報告があり総会を終了しました。時間の関係で、十分な審議は尽くせませんが、今後もこのような形式で総会を開きたいと思っております。

4. 会誌『英語コーパス研究』第8号について

奈良の帝塚山大学短期大学部における第17回大会に出席された会員には大会当日、また、大会に出席できなかった会員の皆様にも、このNewsletterとともに『英語コーパス研究』第8号が届いているかと存じます。第8号巻頭には、第16回大会で講演されたBiber, Reppen先生(Northern Arizona University)からご寄稿いただいた論文を掲載しています。論文、研究ノートではコーパスの斬新な活用例が示され、非常に刺激的な論考を収めることができました。コーパス分析ツールとして名高いTXTANA Standard版について、ツール作成者の赤瀬川史郎さん(赤瀬川翻訳事務所)ご自身から紹介してもらっています。家入葉子先生(神戸市外国語大学)にはCIMQL-IIIという統計学ワークショップの様子をご報告いただいております。最後に齋藤俊雄先生(大東文化大学)には、新しい企画で、コーパス英語史研究の特集号を紹介する論文をご執筆いただきました。

論文を投稿された執筆者の方々に感謝申し上げますと共に、審査の過程で査読にご協力いただいた先

生方、編集の様々な場面で援助を惜しまれなかった西納春雄、吉村由佳両編集委員、編集上困ったときにいつも助け船をだして下さった前会長の齊藤俊雄先生、事務局の中村純作先生には、この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

深谷輝彦（梶山女学園大学）
『英語コーパス研究』編集委員会

5. 会誌『英語コーパス研究』第9号について

『英語コーパス研究』第9号の原稿を次の要領で募集いたします。会員各位の積極的な投稿をお待ちしております。

【原稿の種類】

1. 英語コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた「研究論文」、「研究ノート」
2. 「コーパス紹介」、「ソフト紹介」、「書評」、「海外レポート」、「論文紹介」などの各種情報あるいは紹介原稿

【投稿申込締切】2001年6月30日(土)

(氏名、所属、原稿の種類とタイトルを事務局までお知らせください。)

【原稿提出締切】2001年10月1日(月)

(ハードコピー4部及びフロッピーディスクを提出。)

第8号とは異なり、第9号では原稿提出時にFDの提出もお願いいたします。

【原稿提出先】

〒464-0802 名古屋市千種区星ヶ丘元町 17-3
梶山女学園大学文学部
深谷輝彦研究室宛

【原稿の長さ】

1. 研究論文
和文 35字×30行×15枚以内
英文 70ストローク×35行×15枚以内
(いずれも Abstract(英文)、注、書誌を含む。)
2. 研究ノートは10枚以下、その他は研究論文の半分以下。

【書式】

第8号所収の論文を参考にしてください。詳細は学会ホームページでご確認ください。

【採用通知】11月頃

【刊行予定】2002年3月25日

【問い合わせ先】

深谷輝彦
E-mail:
FAX: 052-781-6210

『英語コーパス研究』編集委員会

6. 第18回大会の日程と研究発表募集について

2001年度の秋の大会(第18回大会)は10月6日(土)に中央大学多摩キャンパス(〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1 : 0426-74-2144 (広報課) URL: <http://www.chuo-u.ac.jp>)で開催される運びとなりました。会場校の大会準備委員である新井洋一先生のご協力を得つつ、準備に取りかかります。会場校へのアクセスには中央線立川駅で多摩モノレールに乗り換え(約16分)あるいは京王線・小田急線多摩センター駅下車、多摩モノレールに乗り換え(6分)または13番乗り場よりバス(12分)などが利用できます。是非、今から出張の予定に組み込んで頂ければと思っております。秋たけなわの多摩丘陵でお会いできることを会場校準備委員、事務局とともお待ちしております。

大会での研究発表を次の要領で募集いたします。発表を希望される方は、下記の要領に従って、郵便または電子メールのいずれかで事務局にお申し込みください。

【応募締切】2001年6月30日(土)

【提出物】題目と要旨(800~1200字程度)

【内容】本学会にふさわしい、コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究

【採否決定】2000年7月中旬(予定)

- ##### 【その他】
1. 時間 発表 25分+質疑応答 5分
(応募数により短くなることもある)
 2. 資格 本学会会員であること

シンポジウム、ワークショップなどの企画についてもアイデアをお寄せください。

開催校よりの補助を得られる可能性を考慮して、一昨年より、春の運営委員会で翌年の春秋2回の大会会場校を決定することになっております。今年度春の大会時の運営委員会で、来年春の第19回大会は久々に大阪大学言語文化部で、秋の第20回大会は名古屋大学で開催されることに決定いたしました。会場校の先生方にはお世話になりますが、よろしく願いいたします。なお、詳しい日程などはその都度、*Newsletter*でお知らせいたします。

7. 平成12年度の東支部の活動について

英語コーパス学会東支部では平成12年度に次のような活動を行いました。

第3回コンピュータによる英語教育・研究

日時：平成12年7月29日(土)~30日(日)

場所：大東文化大学板橋校舎

内容：1部「コンピュータを利用したコーパス言語学の可能性」

講師 吉村由佳(慶応義塾大学非常勤講師)

2部「電子テキストを使った講習(インターネット、CD-ROM等)」

講師 塚本 聡(日本大学)

第4回コンピュータ利用による英語研究：データ分析とソフト

日時：平成12年11月25日(土)

場所：大東文化大学板橋校舎

内容：1部「コンコードスラインから何が見えるか」

講師 G. Leech 教授(ランカスター大学)

2部「TXTANA standardの利用方法」

講師 赤瀬川史朗(赤瀬川翻訳事務所)

参加者は学部生と院生が大半ですが、新会員も参加しております。コーパスの基本的な利用方法(KWIC, Wordsmith, TXTANA等の使い方)をゆっくり教えて欲しい、同じ内容でも繰り返し講習会を開いて欲しい等の希望がありました。コーパス言語学研究方法の一連の流れを習得したいという要望に応じて、今後、コーパスの構築、ソフトの使用方法、コンコードスラインの見方、分析の方法、統計処理等を順次取り上げたいと思っております。なお、上記2回の講習会開催に関して、学会より79,121円の補助を頂きました。

平成13年度の予定は、現在のところ未定ですが、具体案が煮詰まりましたら、このNewsletterでお知らせいたしますので、お知り合いの先生方、学生、院生に是非お勧め下さい。

東支部支部長 山崎俊次(大東文化大学)

8. JAECS10周年記念事業ワーキンググループについて

冒頭で、新らしく会長になられた今井先生も書かれておりますが、今年度から来年度にむけての学会の重要な行事として、学会創立10周年を記念する事業を考えております。このことは、すでにこのNewsletterでも何度か触れましたが、具体的な行事のプランを策定するために、この度、ワーキンググループを作ることが、運営委員会です承され、以下のメンバーが決定しました。

赤野一郎(京都外国語大学)、井上幸永(徳島大学)、梅咲敦子(帝塚山大学)、田畑智司(大阪大学)、西村秀夫(山口大学)、深谷輝彦(椋山女学園大学)、山崎俊次(大東文化大学)

今井光規(会長：大阪大学)、中村純作(事務局：徳島大学)

予定される事業内容などから、会誌の編集委員長経験者、事務局の業務内容に精通した方を中心をお願いしました。6月中旬に最初の会合を持ち、秋の大会までには、具体案をまとめる予定です。主な事業内容としては、これまで記念論文集の発行、学会賞の制定などが上がっておりますが、会員諸氏も上記メンバーにどしどしご意見をお寄せ下さい。なお、事務局としては、この記念事業に関する費用に関しては、学会の通常予算ではなく、特別会計を組みたいと思っております。

9. 事務局から

会費納入のお願い

2001年度会費(一般5,000円、学生4,000円)未納の方には郵便振替用紙を同封いたしますのでお納めください。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

2000年度会費未納の方は、2001年度分と合わせてお納めください(振替用紙にその旨記しております)。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦ください。会誌は昨年度分の会費をお支払い頂いている会員にお送りしておりますので、2000年度分未納の方には、今回はお送りいたしません。納入頂いた時点でお送りいたします。また、2年続けて会費未納の場合、JAECS Newsletter等の送付を中止させていただきます。

住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添えください。

JAECS 会員名簿の配布について

第17回大会には間に合いませんでしたが、このNewsletterと同時に、会員名簿をお送りいたします。5月10日時点での最新情報を記載したつもりですが、誤りがございましたら、事務局までご一報下さい。

JAECS ロゴについて

JAECSのロゴを決定頂いて、長いこと経ってしまいましたが、会長交代と同時に、Newsletterのヘッドに新しいロゴを貼りつけました。すでに本学会ホームページ(<http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html>)にアップロードしているNewsletterはこのデザインになっていることにお気づきの会員諸氏もおいでになることと思いますが、ご意見をお聞かせ下さい。

その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案ください。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せください。

FORUM

Lancaster 大学での 1 年を振り返って

神戸商科大学
瀬良晴子

E-mail:

1999 年 4 月より 2000 年 3 月まで英国 Lancaster 大学で主に Stylistics および Corpus Linguistics の勉強をする機会をいただきました。本当は visiting scholar などの立場で行きたかったのですが、supervision を受けるには visiting student の方がよいと言われ、高い授業料を払う羽目になりました。他の国からの研究者も visiting student の人が多く、財政的に苦しい大学事情からできるだけお金を払って来てもらう、というような姿勢を感じました。

小学 2 年の息子と二人でしたので、なかなか思うように授業に出たり研究をしたりはできませんでしたが、その中で一番有益だったのは MA の Corpus Linguistics のセミナーでした。これは Tony McEnery による講義とペアになったもので、受講者は大半が留学生でコーパスの利用が初めての人がほとんどでした。そのため、セミナーではまずネットワークで使える BNC を利用しコンコーダンスや検索の仕方など基本的な概念、操作を教えていました。その後、「60 年代と 90 年代の英語のちがいは？」などの例題をもとに、Standard Corpora を Wordsmith で分析し、Wordlist やその他の機能の使い方や効用を学びました。後にインターネットなどを利用した各自のコーパスの作り方、ヘッダー情報によるファイルの整理法などを初心者にもわかりやすく教えていただきました。

講師の一人が、コーパス学会にも所属しておられ当時 Lancaster 大に留学中の投野由記夫先生でした。いつも親切に質問に答えていただき（日本語で）、授業外でもコーパスのことをいろいろ教えて

いただき、日本に帰ってから早速コーパスを少しは利用できるようになり、本当に感謝しています。

BNC Sampler に重複するテキストが？

徳島大学 S
岡元 義彦

E-mail:

会員の皆さんの中にはもうすでにお気付きの方もいらっしゃると思いますが、BNC Sampler で検索したときにまったく同じセンテンスが 3 回出現するという体験をしたことはございませんか。たとえば、when で検索すると“when they suggest ...”といった全く同じセンテンスが 3 回出現します。それぞれのセンテンスの Bibliographic Data を見てみると、a8w、a95、a9e という 3 つのファイルから抽出されたものだということがわかります。ちなみに、これらのファイルはそれぞれ、Guardian Newspapers Ltd. の 1989 年 12 月 7 日付け electronic edition、1989 年 12 月 8 日付け electronic edition、そして、1989 年 12 月 10 日付け electronic edition から作成されたものです。

そこで、これら 3 つのファイルの中身をテキストエディターで見ると、a95 のテキストは a9e の中にほとんど収められており、a9e の中には a95 には収められていないテキストが存在することがわかりました。また、a8w に関しては、その一部が他の 2 つのファイルと重複している部分が見つかりました。たとえば、Simon Tisdall 氏の記事は重複している部分がほとんどですが、そのなかには単語やフレーズがいくつか抜けているセンテンスも存在します。

これらの結果は、左ソートあるいは右ソートされたコンコーダンスラインを参照して、コロケーション情報を考察する場合などでは、問題はありませんが、頻度などにより統計手法を用いて分析する場合には注意が必要です。対策としては、Sara ではなく Word Smith Tools を使って検索を行うという方法があります。このとき、Choose Text のところで、先に挙げた 3 つのファイルのうち 1 つ、あるいは 2 つを検索対象から除外して検索してください。この対策以外にも、Sara の Query builder を用いることにより、対処できるかもしれませんが、Word Smith Tools のほうが使い勝手がよいでしょう。

以上、ゼミのレポート作成時に見つけたことを、簡単に報告させていただきました。